

平成26年度 第1回 鳥取市総合企画委員会（議事概要）

- 日時 平成26年10月21日（火）14時00分～16時00分
- 場所 鳥取市役所本庁舎6階 全員協議会室
- 出席委員 上山弘子、岡田一壽、岡本洋一、尾崎直美（副委員長）、小谷文夫、下山裕子、白岡あゆみ、谷上雄亮、茶谷友士、塚田比佳里、橋本勝信、松本壽恵、松本弥生、森英俊、安田晴雄（委員長）、山根滋子（16名）
（五十音順、敬称略）
- 欠席委員 谷口節次、富岡庄一、西村賀代、森原昌人（4名）（五十音順、敬称略）
- 鳥取市 市長、副市長ほか各部長（監・局長）、企画調整課（事務局）

1 開 会（事務局）

2 市長あいさつ

- 大変お忙しい中、御出席、また本委員会の委員に御就任をいただきお礼申し上げます。
- 本委員会は、鳥取市の総合計画について、幅広い見地から御審議、御意見をいただく大変重要な役割も持つ。今後、委員の皆様には、現在の第9次総合計画の進捗状況の確認、進行管理とともに、平成28年度から新たにスタートする第10次の総合計画の策定の中で、本市がこれから将来に向かって進むべき方向、またまちづくりについてさまざまな観点から御審議をいただきたいと考えている。
- 現在、鳥取市を初め、全国の各自治体では少子高齢化や人口減少、公共施設の更新問題等と、さまざまな課題、問題がある。また、財政状況等も国を挙げて大変厳しい状況にあり、鳥取市は合併して10年という大変大きな節目の年だが、これから将来に向かって、どのようにまちづくりを進めていくか、非常に今、大切な時期に差しかかっている。
- これから鳥取市は、自信と誇り、夢と希望が持てる、そういった街でなければならないと思っている。具体的には、こういったものを5つの柱にまとめており、これらのいろいろな課題に取り組んでいきたい。
- 中核市の移行も目指しており、雇用の確保拡大、雇用の創出、これも喫緊の課題である。また、防災にも地域防災力の向上をさらに図っていかねばならないと考えている。
- 9月には、賑わいのある「すごい！鳥取市」創生本部を立ち上げた。職員も全庁一丸となって、今、いろいろな課題に一生懸命取り組んでいる。
- 本日は、委員の皆様にも、第9次総合計画の取り組み状況等も説明させていただき、市政に対する御意見や御提言をいただき、また、活発な御審議をお願いしたいと思っている。よろしく願い申し上げます。

3 委員自己紹介

4 委員長・副委員長選出（事務局より提案すること及び提案内容に委員会承諾）

- 委員長 安田 晴雄氏
- 副委員長 尾崎 直美氏

<委員長あいさつ要旨>

- 頑張っていきたいと考えている。
- 元の岩手県知事の増田さんが日本創成会議を開催された。その創成会議が大変興味のある2つの命題を私たちに提言をなされた。1つはストップ少子化、それともう1点は地方元気戦略。

○今、私たちは何もしなければ、2040年には鳥取市の人口は14万0,000人になるという、強烈なインパクトである。もちろん鳥取市だけではなくて国も、2040年には1億600万人になるよという、すごい数字が出ている。

○でも、私たちは、知恵というものを持ち合わせている。やるかやらないか、どっちかと言われたら、やるしかない。私たち自身が自覚を持って、積極的な行動でよろしくお願いをしたい。

○私たちがやるという信念で、2年間、やらせていただこうと思うので、皆様方の御協力を切にお願いを申し上げて、挨拶にかえさせていただきます。

5 諮問

市長から安田委員長に諮問書が渡された。

6 議事

(1) 協議・報告事項(事務局説明)

① 総合企画委員会の職務等について

○ 質疑なし

② 第9次鳥取市総合計画の概要について

(小谷委員)

資料2-2、66番の雇用者数について、実績値の報告が、紙に印刷してある数字と大幅に異なっているが、これは何か定義が変わったとか何かあるのか。

(太田企画調整課長)

指標の説明欄では、新しく創造した雇用者数の累計となっているが、実績欄には累計をせずに、単年度の数字をそのまま記載していた。

(安田委員長)

ガイナレ鳥取1試合平均、目標値が6,000人にしてしたが、かなりのオーバーではないか。J1にいくための目標かという気もするが、目標が余りにも高過ぎたのではないか。今もJ3にいて、2,000人、3,000人というレベルだが。その辺をちょっと調べておいていただきたい。今、即答できないということであれば、次回またお教え願いたい。

【→回答別紙1】

(岡田委員)

先ほどの説明で、資料にある達成率、実績値が累計とのことだが、累計でない単年度の実績もあるのか。同じように、コンベンション誘致数等については、24年度に比べ25年度は下がっている。これは単年度の数字ということか。

(太田企画調整課長)

コンベンション誘致数については単年度の数字となる。25年度が落ちたということになる。

(岡田委員)

それでは、実績値あるいは達成率等が、事業によって累積で評価するものと、それから単年度の実績で評価するものとの2種類があるということか。この数字だけ見ると、非常にわかりにくい。例えば、単年度だけで評価するものはその数字で上げていただいて、累積でこの数字になりましたというのをその欄の下のほうに括弧で累積数を上げていただくということをしていただければわかりやすいかと思う。

(太田企画調整課長)

次回資料から直して出させていただきます。

(小谷委員)

今の関係で御質問させていただくが、コンベンションで誘致数の件数というのは、その当年に誘致した件数なのか、それとも実績が出た件数なのか、どちらか。26年に誘致したけれども、実際にコンベンションを使うのは28年だとすると、その件数はどっちにカ

ウントされているのか。要するに、経済効果としては誘致の件数より実績の件数のほうが経済効果に即していると思う。そのあたりの定義はどうなっているのか。

(田中企画推進部長)

先の御質問は実績値ということである。誘致をかけたのではなくて、あくまでもその年度に開催された実績となる。

もう一つ、先ほどの累計と、単年度の数字について、実はこの総合計画の下位に個別の計画があり、そちらのほうの数値目標というものから引っ張ってきているので、こういったややこしい表記になっている。先ほど御意見をいただいたので、わかりやすく並列して表記するとかというのは心がけていきたいと思っている。

(安田委員長)

次回からそのようにお願いしたい。その他、いかがか。

(谷上委員)

資料2-2の表のほうで、26年度から急に数値が出て、始まっているような取り組みがあるが、こういったのは途中から始まったという考えでよろしいのか。

(太田企画調整課長)

これは、指標の説明のところにもあるが、市民アンケート調査においてのものになる。後で説明させていただくが、5年に一回、この総合計画に絡んで市民アンケートをさせていただいているもので、5年に一回数字が出てくるものとなる。

(森委員)

資料2-2、31番のがん検診の精密検査のところの、多分実績値というのが正しいと思うが、がんの部位、胃がんとか肺がんとか大腸がんとか子宮がん、乳がんの各がんごとによる実績値を次回から出していただけたらと思う。具体的にどういうところを啓発していかなければいけないのかわかりやすいので。

(安田委員長)

この枠の中に入れるのは難しいかもしれないが、今、委員のほうからあったように、具体的に部位によって分けたいかがか。大きい順番から、3つ、4つといった形で。

(太田企画調整課長)

そうさせていただく。

【→回答別紙2】

③第10次総合計画策定について

④市民アンケートの実施について（一括説明）

(岡田委員)

総合計画スケジュールの中で、まちづくり協議会のことがちらっと出ている。私自身、ずっと手がけてきて頑張ってきたが、ほんのこの間まで、一度も鳥取市のまちづくり協議会の総会の会合が開かれていない記憶がある。私の把握が間違いなのかどうかということをお聞きしたい。自治連合会は2カ月に一回開かれているが、まちづくり協議会というものの組織、一本化したものが鳥取市にあるのかなのか、つくろうとしておられるのかどうかということもお聞きしたい。

(田中企画推進部長)

まず、まちづくり協議会を一本化した組織をつくるのかどうかということについてであるが、先日、全体会を催させていただいた。これについては、地域のほうからいろんな御意見があり、まず、今後どういうふうな全体的な組織の持ち方をしていくのかということのテストケース的なことで、あわせて前回そういった提言もさせていただいた。市のほうから、今後まちづくり協議会の全体的な組織をどういうふうにしていくのかということアンケートをとるということで、実施をしていると思う。これで多かった意見が、全体会をするというよりも、それぞれのまちづくり協議会、大変各地域で個別具体的にいろんな形態でされておられるので、その中で、例えば研修会をやるとか、そういったことについての御意見はいただいたが、一本化して自治連みみたいな組織をつくるという方向性は持っていない。

【→補足説明別紙3】

(岡田委員)

自治連でも、まちづくりの協議会の先進地をいろいろ視察して帰ってきたけれども、残念ながら、それを鳥取市に成果を反映させるということについて、極めて消極的な面もある。やはりせっかく学んだことは具体的にやらなければいけないのではないか。まちづくり協議会が発足したことによって、地域の公民館等には予算や人材などの配慮はしていただいているが、現実には非常に公民館の職員自体が忙しく、地域力、地域の教育力を高めていく、社会教育を進めていくということについて、地域の公民館の戦力というものが、まちづくりとか、またそれ以外のいろんな地域の中での職務を公民館に持っていつている実態があるので、一度調査していただけたらありがたいと思う。そうしないと、地域の公民館が本来の公民館の職務を遂行できない。特に鳥取市のように、協働推進課のほうに公民館の実権、指導体制、が移ったということについて、弊害が出ている面があるように思うので、ひとつその点についても協議会等でしっかり確認していただきたいと思う。

(田中企画推進部長)

市内には61地区あり、地域によって課題の取り組み方とかどういった事業をされていくのかということとはまちまちになっており、そのあたりを今行っているアンケート、こういったものを反映させながら、また今、委員さんの御意見も承り、今後、総合計画全体の計画にあわせて、協働のあり方など、こういったものも含めて、検討させていただければと思う。

(2) 意見交換 (各委員が発言、質問事項があれば事務局回答)

(上山委員)

まちづくり協議会というのが各地区にあるが、なかなか予算がないということで、机上での協議しかできないような状態が、私たちの地域ではある。とにかく部屋を飛び出して外に出ようという話はしているが、どこから予算をとってきて、どういうふうにもちづくりに貢献していったらいいのかというところが、なかなかまとまらない。これについては、先ほど全体会を実施したという話もあったが、ほかのところの事例なども聞かせていただきながら、全体的なものをみんなで共有してやっていかないといけないと思っている。

(岡田委員)

総合計画や市のいろんなビジョンのことについて聞かせていただいた。気になっていることは、市民憲章が形式的なことになっておるのではないかと。形式的な、つい文章化した、5つのことを並べてあるようになってはいないかと。総合計画であるとかまちづくりの計画の中に、市民憲章が一本筋の通るような形になっていない面があるのではないかなという気がする。今日見せていただいた総合計画の中でも、あっ、これがここだな、これがここに直結しているなということがわかりづらい。わかりやすくしてもらいたい。

(岡本委員)

一番最初の基本構想の部分では非常に崇高ないい方向ができていますが、実際に実施計画に入ったときに細分化されてしまって、総合的な運用がなかなか難しいのではないかと。鳥取市は大きな行政組織であるので、それぞれが連携して進めていくというのは非常に難しいかもしれないが、共通するようなところは連携をして、どこが主体となってやっていくのかという形で、それに関係する部署は協力できるような体制で効率的な運用をお願いしたい。

(小谷委員)

観光の面から考えたときに、鳥取市だけでクローズできるものは非常に少なく、やっぱり県であるとか、あるいは県域を超えて、例えば山陰海岸ジオパークの活動といったところが非常に重要になるわけです。その中で、市としてどのようにやっていくかという視点がかかなり重要だと思う。ちょっとその辺が希薄だったのではないかと。市は市で動いて、県はまた別の動きをしてみたいなところが多分に感じられたので、そこのところは今度の計画を練られるときに、我々ももちろん意見はいろいろ言わせていただくつもりだが、そういう視点をぜひ持っていただきたいなというのが一つ。

それからもう一つは、先ほどのコンベンションの誘致の件数のこともだが、コンベンションでいうと、だんだん件数が減っている。競争の激化によって減っているのだろうと。つまり、何もしなければ減っていくに決まっているので、そういったところの手当を何かしていかないといけないのかなと。そういう意味で、目標管理というのが、単年度ごとがいいのかどうか、やっぱり5年ぐらいのスパンを見通して、最終目標をこれに置いて、そこに到達するまでのプロセスはいろいろ紆余曲折あるのだろうから、それはそれで中間的にやるというふうにしなないと、目標を達成していないではないかといって、余りおもしろくない結果になるのかもしれないという気がする。

(下山委員)

日本は今、先進国の中でもすごく公務員が少ない中、市役所の方とか県庁の方とか、鳥取をよくしようとすごく頑張っているなというのが、私は岡山県民なのですが、3月の終わりぐらいから鳥取市に住んでいて、鳥取市をよくしようというのがすごく伝わってきている。このまま、今、少子高齢化とか問題になっていて、特に鳥取は人口が少ないということだが、ここに座っている委員会の皆さんも含め、すごくやる気がある方々なので、より鳥取市がよくなっていくように私も貢献できたらと思う。

(白岡委員)

私は移住者だが、移住・定住の窓口が鳥取市にあって、そちらを通じていろいろなことを教えていただいたり、空き家バンクを紹介していただいて、格安に住む場所を確保できたとか、あと地域に溶け込むために町内会を紹介していただいて、すんなりと地域に溶け込めたという、移住のためのプロセスをすごくサポートしていただいて助った。

ただ、地域の中で、8割の方はいいところでしょうとおっしゃるのだが、2割くらいの方が、何でわざわざこんなへんぴなところに引っ越してきたのかとおっしゃる方もおられて、もっと自信を持っていいのではないかとすごく思っている。この総合計画を見ながら、もしこれを本当に全部実現できたら相当住みやすい県になって、県民満足度もすごく高まるのだろうなと思って期待している。

(谷上委員)

きょうは若者目線ということで出させてもらっているのが、もう少し20代30代の方に鳥取の状況を見てもらったら、すごく元気も出るし、地元にも誇りが持てるのではないかなと思う。最近私がよく考えたり身近な同年代と話したりするのは、地元でリーダーが全然いないということで、若いリーダーを育てるようなシステムをつくってもらったなというのが最近よく思う。団体のまとめ役の人と話したりすると、やっぱそういう話に最近は行き着くなど。そういうのを鳥取市でできたらなと思う。

(茶谷委員)

まず業績のよい会社の共通しているところは、社員さんがその会社で働けることに誇りを持っているということが挙げられる。これは、鳥取市においても、鳥取市民であること、鳥取に住んでいることを、例えば県外に行ったときに、どこから来られたのと言われたときに、鳥取市ですと自信を持って言えて、鳥取のいいところをアピールすることができるか、そういうまちづくりにすれば、多分鳥取はすばらしいまちになるのではないかなと思う。また、少子高齢化、これは日本全体の問題だが、なぜこういう減少が起きているのかというと、子供をつくる環境がないから、子供をつくれなとか結婚なんて到底無理と考えている方が大半を占めているので、こういう減少になっていると思うので、そこを、結婚して子供をつくって安心して育てられる鳥取ということをアピールしていけば、この状況は変えられるのではないかなと思う。

(塚田委員)

資料について、資料2-2は基本計画の進捗状況、資料2-3は実施計画の予算及び指標の達成状況。この2-2と2-3のうち、2-2に上げられたものはどういう意味があってピックアップされたのか。子育て支援の充実が保育園の芝生化と子育てを楽しいと思う市民の割合となる。例えば子育て支援は、応援の充実だと。で、この後の実施計画の予算とか指標には載っているのだが、計画の進捗状況がこうだったというのは何か理由があ

るのか。

(太田企画調整課長)

基本計画の中で、実際数値目標として上げられているのがこの2件となる。実施計画のほうでは、またそれぞれの事業に対しての進捗状況というのがあるが、計画レベルで数値目標として上げられているのがこの2件である。

(塚田委員)

それでは、資料2-3の、例えば36番の発達相談事業のところは予算も空欄で9月補正も空欄だが、これは、予算はないけれども、目標値や実績や達成率があるから載っているということか。その次のこども家庭支援事業も、予算はあるのだが、事業の性質上、設定なし、この辺がちょっとよくわからない。

(太田企画調整課長)

まず36番について、相談の実施回数というのを指標にしているが、実施回数について、予算は伴わないので、回数のところでの実績、達成率という表現の方法をさせていただいている。一方、37番については、予算がこの37番は3項目あるが、養育支援訪問事業費については、回数とか件数とか、そういう指標がないもので、予算だけ計上しており、こども家庭支援の部分と、親と子のすこやか推進というところでは、通告相談件数、クラブの開催回数という数値を、目標として上げさせていただいている。

(塚田委員)

もう1件、私どもの活動がここに載っていて、ちょっとびっくりしたのだが、やっている主体の私たちがこういうふうになっているということを知らなかった。目標値があって実績があって達成率があったという。協働を進めるのであれば、その主体というか、行政側とやっているほうがもう少しきちんとこういうものにこういう部分が載っていますよということをお聞かせいただいて、あっ、そうなのだと。協働を進めていくという上では、そういうコミュニケーションはすごく大事なのではないかなと思った。

(下田健康・子育て推進局長)

今、委員のほうからあった件については、いろんな公民館やいろんな場所でやっておられる。ここの回数、件数というか、公民館などでされて、基本的には子育ての自主事業というふうに判断しているが、今、団体のほうは知らないということなので、これからどういふような協働でできるかということをお話をさせていただきたい。

(橋本委員)

私のほうは、新しく鳥取市の駅前にオープンした学校だが、私の法人では、大学院大学等学生が6校で4,300名在籍している。また、全体で65校、学校を全国で運営して、3万4,000名の学生がいる。隣の島根県の出身であり、鳥取大学の工学部で研究をしていた時期もあり、お話をいただき、一度、訪ねてみようということがスタートである。市役所の方、深澤市長にも何回か、副市長時代にお目にかかり、何か手伝わなければいけないのかなということで、今は鳥取市民の気持ちで出てきている。ぜひ看護師の定着と若者がふえてくれるまちになれるように応援したいと考えている。

もう一つ、私がお手伝いできることは、雇用の増進で、もし企業誘致とか大阪のほうから会社を誘致してほしいとか、そういうことが市役所のほうであれば、汗をかき、できるだけまちが発展するように努力したいと思う。若者の定着と人口がふえることを頭の中に入れながら頑張りたい。

(大田経済観光部長)

企業誘致の件はいろいろお世話になっているが、ぜひまたお話を伺いたないので、よろしくお願ひしたい。

(松本(壽)委員)

ことしの全国学力状況調査の結果、小学校、中学校ともよく頑張っているなど思っているが、中学校での不登校の率、鳥取市は全国より高いという状況がある。また、小学校はもっとふえている。小学校1年生と4年生に不登校が出やすいということで、連携が不足

しているのではないか、学校の学習内容が非常に難しくなってくるので、そのあたりでの理解不足があるのではないか。怠学傾向のある子どもというのは中学校や高等学校でまた再発しやすいという。それをどのようにサポートしていくのかということで、カウンセラーや教職員、養護の先生、担任、保護者、本当に努力しているが、やはり高校の中退は多いという実態がある。小学校の段階に入るまでに大きく1つ山があり、小学校に入れば小学校で、中学校で、高等学校でというふうに、自分に自信が持てるようなしっかりした子どもを育てていくということがとても大切だと思う。

県内のいじめは半減したということが新聞に出ていたが、ネットの普及などで、だんだんその実態が見えない、傷口が大きくなってからでないと見えないという状況がある。ではそれを誰がとめるのかというと、学校の教職員だけではとめられない。やっぱり両親であり家族であり地域であると思うが、そのあたりもしっかりと教育していかなければいけないと思う。今、子どもの環境が大変複雑になっている。一人家庭の子どもがふえている。幼児教育、子育ての難しさもあるが、小学校に入ってから非常に難しい。資料の中で、子育ての満足度が70%だと書いてあったと思うが、30%はやっぱりえらいと感じていると思うと、しっかり自分の子どもを本当に育てていける親育ても必要だなと思う。それがPTAの大きなつながり、親同士のつながりであり、公民館活動での地域でのつながりかなと思うのだが、そのあたりが届かない子どもたちもいるというところを私たちはしっかりと見ていかなければならないと思う。

(松本(弥)委員)

ここ最近でずっと感じているのは、行政のほうの縦の話は十分に練ってあって、できていると思うのだが、横のつながりというのが全くないようで、その話は聞いていませんとか。おりてくるところはまちづくり協議会のほうに全部おりてくるのだが、いろんな方向から1つにおりてきて、話は全部別の方向に行くという格好なので、先ほどのまちづくり協議会の全体会にしても、そのことについては答弁ができません、と。では、会合をするなよという話なのです。みんなが時間を割いて、まちづくり協議会のメンバーはボランティアでやっている。ボランティアが嫌でそういうことを言っているわけではない。皆さんが地域に愛着があったりとかして、いろいろとこれではだめだと思って参加しているのだが、その大もとになるところが何か結構丸投げ状態みたいな格好で下のほうにおろされてくるので、こちらのほうも、問題が大き過ぎて、どうしていいかわからないような状態からの出発で、その中で、単年でこうしろああしろと言われても、なかなか難しいのではないかなと感じながらやっている。

また、特に私が活動している地区は、(活動は)やりたい人がやっているのでしょうという感覚が非常に根強いところで、ほかの件数が少ない所は、まとまりがあったり危機感を持っていろいろな活動をしておられるが、やりたいやつだけやればいいみたいな風潮がまだまだ定着している。

また、まちづくり協議会とは別に、ほかの福祉の団体だとか、似たような団体がいっぱいあり、同じようなことを年間通して、あっちの団体もこっちの団体もやっているという格好で、出ている人が一緒というところがあり、なかなか地域の人に末端まで広げていくということが難しい状況である。なので、横にちょっと話を漏らして、輪を広げていってもらえたら、少しはつながっていくと思うので、その辺を改善していただけたらなと思う。

(安田委員長)

大変耳の痛い話が出ているが、もちろん町、市、県が広域的に連携をとっていただいたら済むことなだろうが、それは後ほど、今こちらには副市長に話をお伺いしたらと思う。

(森委員)

孫がいるが、子どもを連れていくところが鳥取にはない。わらべ館でも、1回行ったらもう飽きてしまうと。孫の1人は下関にいるが、下関は市民証というのがあり、それを持ってお隣の北九州市に行くと、北九州市の動物園や水族館を行ったり来たり、何回でも年間パスポートというのを出示してもらえる。米子市とかほかのところと連携するとか、それから、姉妹都市の姫路市の動物園を少し料金を下げて使えるとか、そういう策をお互いに

していただくと、もっと出やすくなるのではないかなと思う。

(山根委員)

鳥取には何もないというが、自然豊かな鳥取市であり、いい施設、自然、出会いの森とか知らないところがたくさんあるので、あるところを十分活用して、新たにつくるのではなくて、今あるすばらしい自然を活用しながらこの計画の中に取り入れていただけたら、とてもありがたいと思っている。

(尾崎委員)

資料2-2の文化芸術の11番ところの、指標の説明のところ、**「62.4%を参」**までになって途中で切れているので、その先を書いていただくとありがたい。

それから12番。市民会館、わらべ館、高砂屋の人数だが、先ほどの説明中にはなかったのが、26年度は48.1%ということになっている。各施設、いろいろ問題点はあるようだが、何とかならないか。この中には入っていないが、砂の美術館もあり、市の施設はいろいろあっちこちにあるのだが、ほかのところはどうなっているのだろうか。例えば万葉歴史館であるとか、ほかの支所の文化施設はどうなっているのだろうかなどちょっと心配している。

教育のところでも、いじめはなくて、何で不登校なのだろうと。小学校がなくて、何で中学校だけに特化されているのだろうかとか、何でこの項目がここに出てきているのだろうかというのがいまいちわかりにくい。

(安田委員長)

26年度は、まだ半期、上半期の数値となる。掛ける2で約1年分となる。

(尾崎委員)

大変失礼した。少ないと思っていたものだから。

(安田委員長)

私の独断で、ちょっと項目を四、五点について、市の方々から御回答をいただきたい。まず、観光面で、きょう、圏域を超えた面としての捉まえ方、これが非常に劣っているのではないかという話があった。観光立県鳥取の話題の中ではこれが一番当てになっているのかなということ。それから、若い人のリーダーをつくることについて、そういうバックアップ体制はどうなっているのかなということ。それから、少子化、これは大変難しい問題なので、さわりの辺だけでも何か鳥取市としての捉まえ方があればと。それからキャリア教育云々、それから三位一体、いわゆる日本の今の一番大事な問題の提議があった。これに対する市の総合的な意見、これを副市長からお尋ねをしたい。それから行政の(横の)連携ができていないのではないかという話もあった。私自身もそのように感じるが多々ある。そのあたりを踏まえて、副市長、よろしいか。

(羽場副市長)

まずもって、20名の多様な各界の方々からの御意見ということで、この総合企画委員会を進めさせていただくということで、いろんな部署にはいろんな計画をそれぞれつくっているが、この総合計画が根幹をなすものということで、この総合計画に沿って、それぞれのセクションの計画があるということなので、御審議のほうをよろしくお願ひしたいと思う。

まず、観光の圏域化ということ、これは定住自立圏とか、広域の面でのつながり、連携というのは重々やっております。5年前にさかのぼれば、因幡の祭典ということで、東部圏域が連携して広域観光をやっていたということで取り組んだ経過もあり、それが今は観光ネットワーク協議会という形にシフトしながらやっております、これは絶対必要なことだと思っている。観光客の方は面で行動されるので、こういった連携は当然と思うし、行政の枠を超えてやっていくべき問題だという意識も常々持っている。

それから、若い人のリーダーづくりの話、これも常々私どもの課題としており、具体的にどういった取り組みがあるかということ、またこれは一緒になってお話しさせていただきながら、アイデアを頂戴しながらやっていきたいなと思っている。

子供の環境もなかなか厳しいなということで、教育委員会、それから健康子育て推進局、

いろんなセクションがまたがっており、当然力を入れて取り組んでいかなければならない。何よりセクション間の情報共有が少ないのではないかということは、私どもも常々感じており、戒めながらやっているつもりではあるが、全ての情報を全ての職員が共有するというのはなかなかできそうでできない部分がある。役所の中でも連携をとりながらでないと、一つの仕事が完結しない、こういった仕事ばかりになってきているので、これは肝に銘じていきたいと考えているので、御理解をいただきたい。

いずれにしましても、こういった御意見を頂戴しながらつくり上げていくのが総合計画だと思っており、全ての計画は全て市民のためのものなので、私どももややもすれば行政の考え方が先行するということは戒めながら、肝に銘じて市民目線でという取り組みをしているので、いい計画をつくっていききたいなと思っている。何か部長方で補足することがあれば。

(田中企画推進部長)

若干補足をさせていただく。まち協の関係の予算とか、そういったお話あった。これは、この間開催した中で、やはり金と人の問題が一番大きいということで、これはやり方、どんなことがいいのかということで、これは推進事業も含めて、協働推進課のほうで、これまたお出しをさせていただくような考えを持っており、また、地域でもコミュニティー支援チームがあるので、ここの活用もしていただければと思う。【→補足説明別紙3】

また、市民憲章の問題、これから総合計画を立てるに当たり、そういった精神的なもの、理念というか、これをきちっと反映できるようなやり方をまた御意見をいただければと思っている。

若い人のリーダーの話があったが、実はふるさと元気塾というのをやっているのだが、余り若い方の参画がないので、この委員会の場でなくて結構なので、意見交換ができたかなと思う。【→補足説明別紙4】

実はこれから鳥取も自虐ではなくて、いいネタを打ち出していくということで、「すごい！鳥取市」という、我々市民もプライドを持っていく、このプライドを外に向けて発信していくということもやっている。また、資料のほうはお託せをさせていただこうと思っている。

看護の専門学校は、収容定員でいくと、大体600人弱ぐらいになるのだが、若者定住に大きく寄与するものということで、あわせて教職員の雇用、また経済効果も含めれば、これから鳥取の創生と合致していくものと思っているので、また企業誘致のほうも引き続きよろしくお願ひしたい。

(安田委員長)

事務局、この会議の議事録は後日当然出るのか。

(太田企画調整課長)

議事録につきましては作成して、皆さんに御報告する。

(安田委員長)

その中で、各人の質問項目に対して、個別にまた報告をしていただいたら幸いである。

(太田企画調整課長)

今回は2月ごろの開催予定ということで、基本構想の部分ということで進めていきたい。それと、報告資料の1から4ということで、日本創成会議やまち・ひと・しごと創生本部と、この人口問題に関する国、県の動き等についても記してある。また、鳥取市の人口に関する状況ということで、10年比の比較であるとか、今どんな取り組みをしている部分で効果が出ているかという資料をお配りさせていただいているので、御一読いただけたらと思う。

(安田委員長)

次回からは10次総に向かって具体的な話、項目に移ると思う。きょうは皆さんの考えをお尋ねしたが、今度はそれを個別に時間をかけて、具体的に進めさせていただきたいと思う。それまでに十分頭を練っていただき、2月にまたお会いさせていただきたいと思う。本日はこれで終了させていただく。ありがとうございました。(了)

【ガイナーレ鳥取の試合入場者目標について】

第9次鳥取市総合計画（H23.5策定）において、成果目標の1つに「ホームゲームでのガイナーレ鳥取の1試合平均観客入場者数」が次のとおり掲げられている。

（施策）スポーツ・レクリエーションの振興

（指標）ガイナーレ鳥取1試合平均観客入場者数

（指標の説明）ホームゲームでのガイナーレ鳥取1試合平均観客入場者数
目標値については、以下の根拠に基づいて設定したもの。

ガイナーレ鳥取1試合平均観客入場者数						
平成22年度	(年度)	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
①3,500人	(目標値)	②5,000人	③5,000人	④6,000人	⑤6,000人	⑦6,000人
	(実測値)	3,692人	3,133人	4,097人	3163人 (9月末現在)	
(その他実績値等)						
JFL	(リーグ)	J2	J2	J2	J3	
18チーム	(チーム数)	20チーム	22チーム	22チーム	12チーム	
1位	(順位)	19位	20位	22位	4位	
5,807人	(ファンクラブ)	5,814人	5,224人	6,354人		

(根拠)

- ①実績値3,489人（J2昇格条件：J2参加前年度の1試合平均観客数3,000人以上）
- ②・③
 - ・ J2昇格に伴う県外からのアウェーサポーターの集客増加
 - ・ 1万人集客プロジェクト等の全県的集客プロジェクトの実施
 - ・ 公式ファンクラブ（ガイナーレグリーンクラブ：GGC）の会員増加 など
- ④・⑤・⑥ ホームスタジアム（とりぎんバードスタジアム）入場可能者数約12,000人の半数

【担当：教育委員会体育課】

【鳥取市がん検診精密検査の部位ごとの受信状況について】

鳥取市がん検診精密検査受診状況

	胃がん	肺がん	大腸がん	子宮がん	乳がん
平成23年度	82.0%	89.5%	77.5%	92.5%	89.9%
平成24年度	84.9%	92.6%	79.2%	100.0%	91.4%

※平成25年度の実績値については医療機関からの報告が遅れており、現段階で確定していない。資料に記載の25年度のものは見込値となる。

【担当：健康子育て推進局保健医療推進課】

【まちづくり協議会と、まちづくり協議会連絡会について】**「まちづくり協議会」について**

鳥取市自治基本条例第13条において、『市民及び市は、コミュニティが自治に重要な役割を果たすことを認識し、コミュニティを守り育てます。』と規定している。

地域の特性を活かしたまちづくりを進める上で、コミュニティの役割はますます重要なものとなることから、市では地域の身近な課題解決に向けて、地域が一体となって取り組む組織として「まちづくり協議会」の組織化を推進した。

現在、地区公民館を単位に61の全地区で組織化されている。

「まちづくり協議会」は、地域をよりよいものにしていくため、それぞれの地域の特性に応じた構成員で組織され、自分たちの地域にどのような課題があるかを地域住民の視点で見つめ直し、地域の進むべき将来像を『地域コミュニティ計画』にまとめられている。

この計画に基づき、構成員である各種団体、地域住民などが一体となって課題解決に向けて事業実施に取り組まれており、地域ごとに課題や資源が異なることから、その活動は多岐にわたっている。

「鳥取市まちづくり協議会連絡会」について

「まちづくり協議会」は、地区公民館を単位に61の全地区で組織化されており、「鳥取市自治連合会」のように、組織を一つにまとめたものが必要ではないかという意見がある。

先に述べたように、「まちづくり協議会」は、地域の課題解決に向けて、地域が取り組むために組織化されたものです。地区の状況はそれぞれ異なっており、他地域のことを聞いても参考になりにくいという声も数多くお聞きしている。

地域の課題はそれぞれであり、同じ方向に目標を定めて向かっていくものではない。しかし、「他地域の状況を聞きたい」、「意見交換する場がほしい」という声もあり、まちづくり協議会に意見をお尋ねする場の一つとして8月27日に「鳥取市まちづくり協議会連絡会」として初めて開催したものである。

自治連合会のような組織の立ち上げは考えていないが、当日の連絡会において、今後どのような形のものが見込めるかなどアンケートを行うことになったので、その結果をふまえ、あり方等も含めて検討していく。

【担当：企画推進部協働推進課】

【ふるさと元気塾の概要】

- 目的・・・中山間地域が抱える様々な課題や悩みに対して、地域や集落をイキイキと元気にするために、実践的な活動を主体的に取り組んでいくことのできる実践者・リーダーとなるべき人材を養成する。
- 塾長・・・鳥取市長
- 塾生・・・中山間地域等で活動する集落や地域、まちづくり協議会、NPO等の団体のリーダーおよび今後地域のリーダーとして期待される方や地域（集落）をなんとかしたいと考えている方々。
＜これまでの塾生の内訳＞
自治会・地区役員、まちづくり協議会役員、営農組合役員、グリーンツーリズム推進団体、地域づくり団体役員、加工品グループのメンバー、NPO法人の役員等
- 特徴・・・○少数精鋭のリーダー養成講座。
○塾生の気づきや学びを活かした取り組みが着実に定着していくよう、専門的なアドバイスを加え実現への具体的な道筋を示すフォロー対応を実施している。
○年間カリキュラムに沿って実践活動を進める1年課程方式であるが、1日参加の臨時塾生も認めている。

【担当：企画推進部中山間地域振興課】